

海上貨物輸送における国際物流施策の推進

スーパー中枢港湾における**大規模ターミナルの機能強化**、一体効率的運営のための**メガターミナルオペレータの育成**
 国際フェリー・RORO船・コンテナ船**ターミナル機能の高度化**のための助成

物流機能の高度化

<スーパー中枢港湾における**港湾コストの約3割低減**と
リードタイムの1日短縮を目標>

次世代高規格コンテナターミナルの形成支援

埠頭公社の民営化等
 による運営の効率化

メガターミナル
 オペレータの育成

内航フィーダー
 コンテナ輸送の効率化

・ターミナルの大規模化
 ・ターミナル運営システムの統合、IT化
 ・コンテナ船の大型化への対応

ロジスティクス・ハブの形成促進

中核的な特定流通業務施設の
 立地促進のための支援

国際海陸一貫輸送網の形成

陸上輸送



(迅速な積み降ろし)

国際RORO船



(円滑な積替え)

鉄道輸送

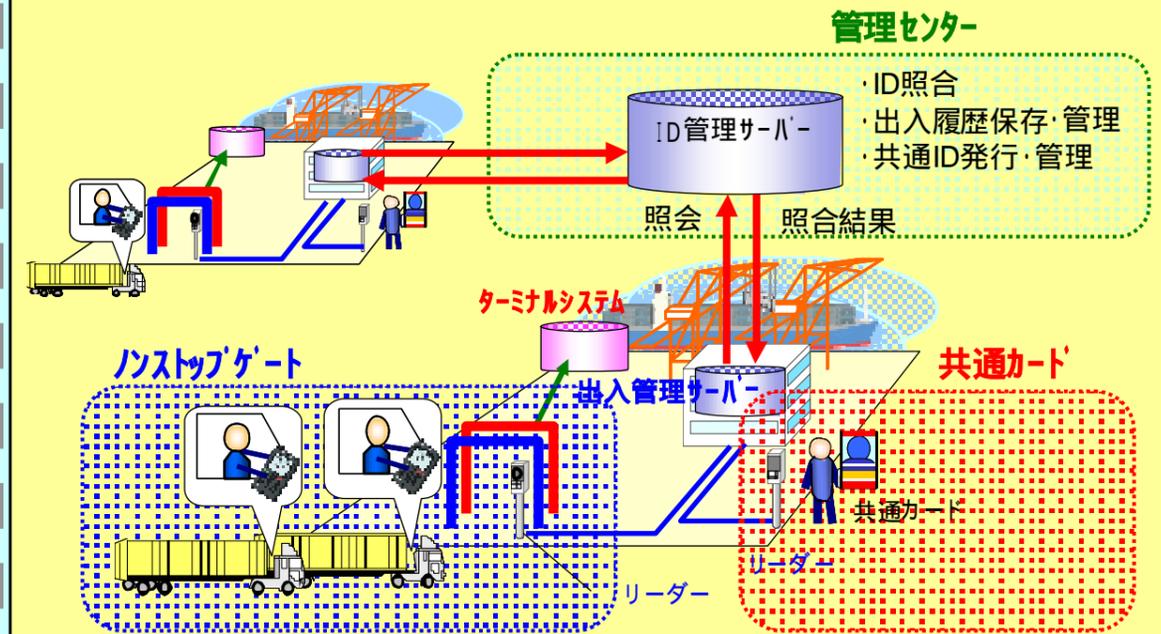


安全かつ効率的な国際物流の実現

港湾施設の出入管理の高度化
 (ゲート効率化に向けた実証実験の実施)

- ・コンテナ搬出入手続きの自動化
- ・出入者・車両確認の自動化
- ・出入者・車両確認システムの
 全国共通化

- ・迅速な入構
- ・出入者・車両確認の徹底



港湾物流情報プラットフォーム、電子タグ等による港湾物流の
 IT化

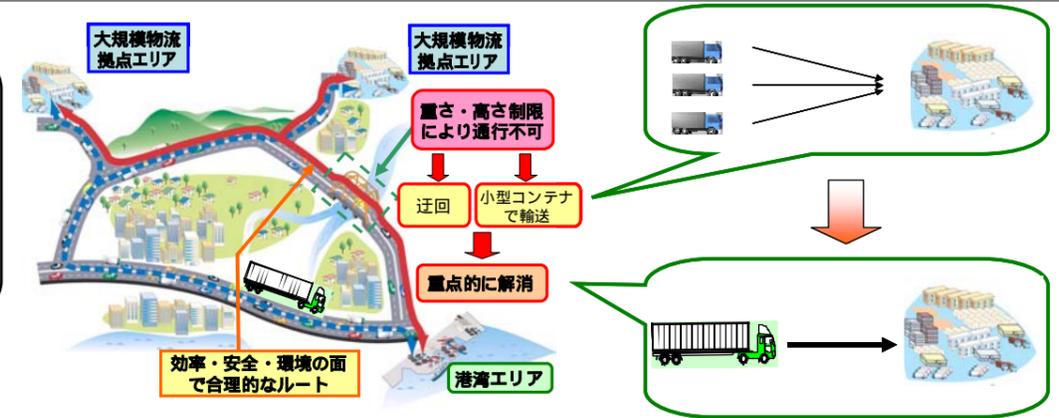
水先制度の抜本改革

- ・我が国港湾の国際競争力向上と水先業務運営の効率性向上
- ・航行安全の確保と適正な業務運営の遂行確保
- ・水先を的確に実施するための人材確保

国際物流基幹ネットワーク（仮称）の構築

～ 効率的で環境に優しい国際・国内物流の実現～

国際標準コンテナ車の通行可能道路の拡大
 （スーパー中枢港湾にかかるボトルネックを概ね5年以内に解消）
 ハード・ソフト一体となった市街地流入や駐車場の削減



背景

国際物流に対応した道路ネットワークの不足

- ・東アジア等との国際競争や企業の海外流出に対する懸念
- ・都市内における貨物車の環境負荷が大きい。
- ・高速道路を利用しない貨物車や生活圏内で移動する貨物車の積載効率が悪い。
 （貨物車の空荷率）
 高速道路利用なし：約60% ⇔ 高速道路利用あり：約35%
 生活圏内の移動：約67% ⇔ 生活圏間の移動：約57%
- ・貨物車の市街地流入・駐車場の問題が解消しない。

課題

国際物流に対応した道路が明示されていない。

貨物車大型化に対し橋梁等のボトルネックが存在。

- ・橋梁の強度不足等により重要ルートにおける国際標準コンテナ車のボトルネック：約50箇所

ハード・ソフト一体となった都市内物流対策が必要。

例) 駐車場（ハード）の確保と運用体制（ソフト）の確立 等

施策のポイント・効果

主要な港湾等と主要物流拠点間を国際標準のコンテナ車が**積み替えなく輸送できる道路ネットワーク（国際物流基幹ネットワーク（仮称））の構築・明示**

国際物流戦略、周辺市街地での環境・安全への影響の両面から、重量・高さ指定道路の範囲見直し

指定状況の見直し
 国際物流対応の道路を明示

17年度中にボトルネック対策箇所を確定

18年度以降、対策実施。
 特に、**スーパー中枢港湾**に係るボトルネックは**概ね5年以内に解消**を目指す。

道路の有効活用による物流効率化・環境負荷低減

- ・料金施策やスマートIC設置による規格の高い道路の活用促進。
- ・公共工事（直轄工事）におけるCO2の削減対策として、グリーン調達や総合評価における輸送方法の工夫促進。
- ・物流拠点周辺の駐車需要を吸収する貨物用駐車場の整備促進。

ハード・ソフト一体となった市街地流入や駐車場の削減

- ・物流事業者・荷主の連携による、共同輸送等の物流効率化の促進
- ・物流事業者、警察等と連携して設置する協議会の活動支援・促進

国際競争力の強化に向けた航空物流機能の高度化

大都市圏拠点空港の整備（羽田空港再拡張事業、成田空港平行滑走路北伸、関西空港二期事業）を着実に推進
国際拠点空港の物流機能を高度化するための**取り組みの総合化**、国内外の**航空ネットワークの充実**

課題

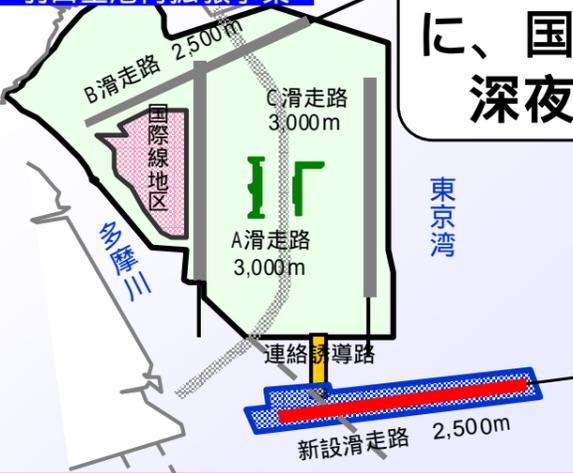
今後一層の増大が見込まれる国内外の航空貨物需要に適切に対応し、我が国の国際競争力を強化するため、**空港容量の拡大や既存ストックの有効活用により、航空物流機能の高度化を推進**することが必要。

今後の取り組み

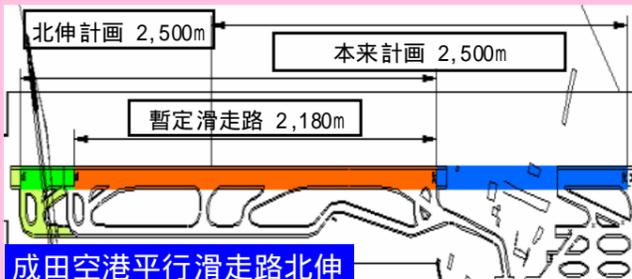
大都市圏拠点空港の整備を推進

羽田：四本目の滑走路を本格着工するとともに、国際線地区を着実に整備
深夜・早朝時間帯の国際貨物便就航を実現

羽田空港再拡張事業



関空：2007年の二期限定供用に向けて整備を進めるとともに利用を促進
複数滑走路を有する真の24時間空港として深夜貨物便の就航を促進



成田：北伸による平行滑走路の2,500m化を推進
国際競争力の強化に資する効率的な貨物輸送を実現

既存ストックを活用した空港物流機能の高度化

トータルコストの低減やアクセス改善等、航空物流機能高度化に関する実験的な取り組みを実施
航空機調達に対する支援措置の維持・充実を推進
航空大学校による基幹的要員の安定供給等
質の高い操縦士の安定的供給のための総合的対策を実施

深夜貨物便が就航する地方空港の運用時間を弾力化
佐賀空港において実施済

今後、航空会社の要望等に応じて対象空港を拡大
道路行政と連携し、空港周辺の道路整備等により混雑を緩和

一般空港における貨物専用便の安定的な運航等を図るために、滑走路改良等の施設整備を推進
羽田空港再拡張後における首都圏をはじめ、我が国の国際航空物流ビジョンを策定
Sea & Air 輸送の活用方策を検討

「ポスト万博」ビジット・ジャパン・キャンペーンの展開

ビジット・ジャパン・キャンペーンを高度化して、**戦略的に日本ブランドを発信**
 2006年度は、**相互交流・若年交流の強化**を図る新規施策を展開

ビジット・ジャパン・キャンペーン： 海外メディアを活用した効果的な広報宣伝 + 海外旅行会社への魅力的な訪日旅行商品造成支援

ビジット・ジャパン・キャンペーンの高度化

2003
 2004
 2005
 愛知万博開催
 中部空港開港
 日韓共同訪問年
2006
 ポスト万博
 キャンペーン

高度化のテーマ

五大市場で開始
 欧州市場を追加
 事業評価による重点化
 地方連携事業の拡充
 東アジアへの重点化
 豪・タイ・星・カナダ追加

国際交流を取り巻く動き

中国・韓国
 における
 対日感情の
 悪化による
 交流減

新たな視点が
 必要

中国ビザ
 発給地域
 全土拡大

相互交流の強化
若年交流の強化

観光当局間協力や姉妹都市
 交流・草の根交流等、相手側
 との協力に基づく**双方向性の
 ある交流拡大が重要**

将来の国際関係の担い手
 であり、訪日リピーターともなる
若年層へのアピールが重要

訪日旅行者1000万人
 達成へ

2010

2006年度の新しい取組み

2006年日中観光交流年の設定

日中相互交流人口(2004年400
 万人)の**増加目標設定**を検討
 観光ビザ発給対象地域全土拡
 大を活用した**中国各地での重点
 訪日キャンペーン**
 相互交流を総合的に展開するた
 めの観光交流促進シンポジウム、
 姉妹都市交流イベント、教育旅行
 プロモーション等の**集中実施**



中国プロモーションの例
 (広州ジャパンフェスタ2005)

訪日リピーター育成のための 若者旅行アクションプログラムの策定

関係者からなる協議会の設置
 による具体策(キャンペーン手法、
 受入体制整備)の総合的推進
 交流促進の優良事例の顕彰・普及
 上記各施策を実現するための二国
 間・多国間**観光協議の戦略的活用**



若者交流促進事業の例
 (日台教育旅行シンポジウムと
 台湾学生の日本スキー体験)

国際競争力のある観光地の戦略的形成

各種施策を集中投入して、国際競争力のある観光地を戦略的に形成

観光戦略を支える観光統計の整備や、国際観光分野での人材育成に着手

観光ルネサンス事業の拡充

やる気のある地域を「選択」し、支援を「集中」

官民一体となった地域の
観光地づくり戦略

民間主体の地域
観光振興組織の
取組み

地方自治体
が自ら行う
取組み

観光ルネサンス
事業補助金、観光地
域づくりに関する基
礎調査等

まちづくり
交付金
等

拡充

・観光産業の構造改革
に資する実証実験を
活用した新たな観光地
域振興モデルの構築
・ブロック別観光まちづ
くりアドバイザー会議
の設置

会議の開催 → 企画書募集 → 審査選定 → コサルティン
グ等の実施

総合的なマネジメント組織による 観光情報の提供

観光客を対象とする 案内標識	ガイド ブック
	
IT機器	交通機関 構内サイン
	
	観光案内所
	

連携

道路事業等

<例>

・標識



・道の駅



国際競争力のある観光地の戦略的形成

ハード・ソフト連携の一層の強化

無電柱化
まちづくり事業
等



連携



ユニバーサル
デザインの
考え方に基づく
観光の促進

観光資源開発等支援プログラムの実施

18年度は全国に点在する観光資源調査の実施・分析を行い、支援措置を検討

例 維持管理の
困難性等の理由で
滅失の危機にある
歴史的建造物等



例 今後国際競
争力ある観光資源
となる可能性のあ
る映画ロケ地等

観光立国推進のためのソフトインフラの整備

全国統一基準による地域間比較可能な宿泊統計の整備

外国人観光客のルート解析

例えば

国内観光旅行の傾向把握

ニーズに合った
観光情報の提供

旅行需要喚起施策の立案

国際観光人材育成戦略プログラムの策定等

国際観光産業の中枢を担
う起業家・経営者人材開発
育成プログラムの開発



通訳案内士のスキル
アッププログラムの策
定・地域限定通訳案
内士制度の活用促進

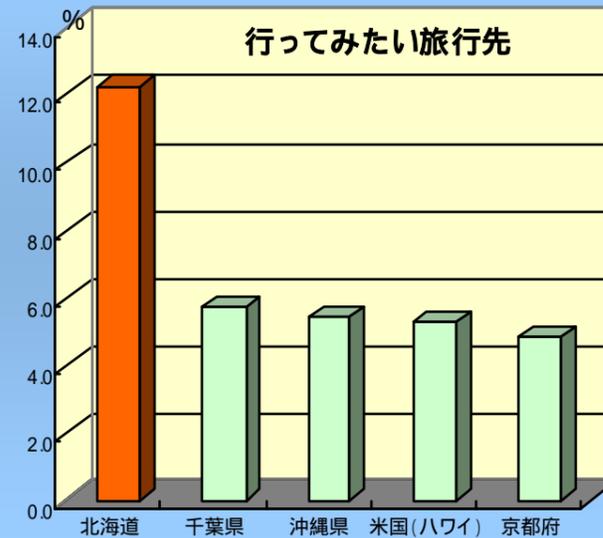
「知床」の世界遺産登録等に対応した観光基盤整備

北海道「知床」の世界自然遺産登録等に伴い増加する観光客の受け入れ環境を整備

【現状と課題】

- ・雄大な自然を有する北海道は観光地として人気が高く、特に**外国人観光客**については近年急増。
- ・北海道内の移動は9割が自動車に依存しており、外国人を含む観光客が、自動車による安心して快適な個人旅行が可能な環境整備が必要。
- ・17年7月の「知床」世界自然遺産登録に伴い、さらなる観光客増加が見込まれる。「知床」地域そのものの適切な保全と併せて、周辺地域における観光客の受け入れ基盤整備や景観・環境対策等が必要。

観光地として人気の高い北海道



外国人観光客が急増



カーナビ等を利用した外国人観光客等への情報提供システムの整備

- ・地上デジタル放送等を活用して、旅行者がカーナビ等の携帯端末を通じて、地図情報をはじめとして、観光・防災等の様々な地域情報を必要な時に多言語で入手できるシステムの実験

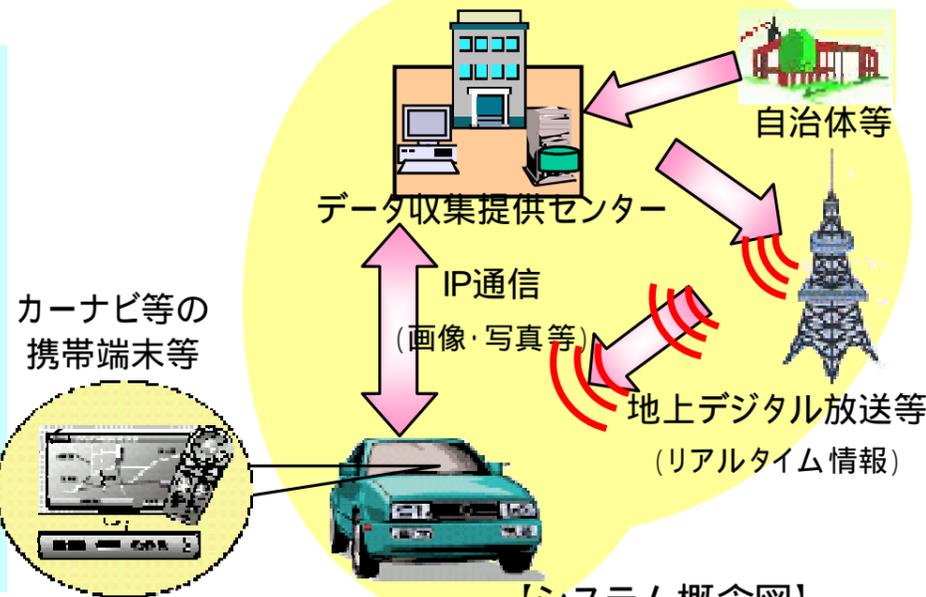
* 提供される情報イメージ *



リアルタイム 開花情報



イベント情報



世界自然遺産「知床」



知床に至るまでの沿道景観整備

- ・知床周辺地域である東オホーツクルートを、地域(住民、NPO等)と行政が連携し、美しい沿道景観整備、魅力ある観光空間づくりに取り組む「シーニックバイウェイルート」に登録。
- ・同ルートにおいては、流水・田園・山岳の3つのステージ別に、知床の美しい景観が楽しめる道づくりを目指す。



周辺観光基盤の整備

今後の観光客の増加に対応するため、アクセス道路の整備や、ソフト・ハードを一体的に行う「みなと観光交流促進プロジェクト」による流水観光船発着場の整備を推進

